

## ま え が き

現代の青少年を取り巻く環境の劇的な変化は、少なからず子どもたちの精神面や行動面に影響を及ぼしています。非行の低年齢化、凶悪・粗暴化といった反社会的行動がマスコミに報道され、不登校やひきこもりなど非社会的な問題も未解決なものが少なくなく、今や学校だけでなく社会全体の問題となっています。

ところで、今の子どもたちは、自分の存在をかけがえのないものと感じる「自己肯定感」が不足しているのではないかという話を、よく耳にするようになりました。そういった自己肯定感のなさが、児童・生徒指導上の諸問題を引き起こす原因の一つになっているのではないかとも言われています。

例えば、直接に生命の危機にかかわる自殺企図や薬物依存、リストカット、摂食障害なども、この自己肯定感が感じられないときに生じやすいものとされていますが、ここ数年来、中学生や高校生の女子を中心としてこういった問題行動がかなりの数で増えてきています。学校においても、これらの問題行動の理解を深め、対応の仕方についても日頃から共通理解を図り、日常的な教育活動の場面の中で児童生徒が、自己肯定感を身に付けられるような様々な取り組みが求められているところです。

栃木県総合教育センターにも、リストカット、あるいは摂食障害、自殺企図に関する学校や保護者からの相談が寄せられることが、以前よりも増えてきています。このような相談には、当該児童・生徒および保護者との面接相談や学校へのコンサルテーション、場合によっては医療機関との連携によって問題解決を図っているところです。

これまでも当センターでは、小冊子「学級・ホームルーム担任のための教育相談」を発行し、先生方のニーズに応じてきましたが、今回はリストカットや自殺企図と摂食障害の理解と対応の仕方を中心にまとめた内容になっています。

この小冊子が、リストカットなどの自傷行為や摂食障害に悩む子どもたちへの理解を深め、援助を行う際の一助となれば幸甚です。

平成16年 3月

栃木県総合教育センター所長

豊 田 敏 盟